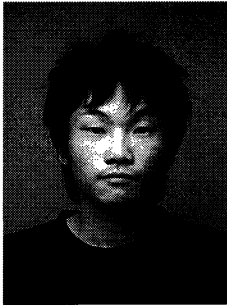


看護短大で得たもの

著者	黒崎 祐也
雑誌名	新潟県立看護短期大学紀要
巻	10
ページ	62-62
発行年	2005-03
URL	http://hdl.handle.net/10631/540

看護短大で得たもの



看護学科8期生 黒崎 祐也

平成16年度、看護短期大学の閉学にあたり、このような原稿を執筆させていただきありがとうございます。いま学生時代を振り返るとお世話になった方々との出会いや、勉学・学校行事を通して得た思い出・経験の一つ一つが貴重で、そのような環境で三年間過ごせたことがとても恵まれていたのだと実感しています。そして毎年の卒業式で、先輩方の卒業される姿を見て寂しさと共に、自分にはまだ先のことかなと考えているうちに自分が卒業する立場になり、いま臨床で多くの経験を積んでいることを考えると本当に三年間という時間は短く、あっという間に過ぎたように思います。

そんな中で、思い出深いことの一つに自治会活動があります。一学年の時から自治会活動に関わり、皆さんと共に桜桃祭や卒業式後の祝賀会等、学校行事の運営を行いました。桜桃祭では毎年地域の方々に来ていただき、各学年やサークルで考えた企画を通してふれあいの場を持つことで学校のことを知ってもらえるよう思案し、毎年楽しい桜桃祭を開催できたことはとてもいい思い出でした。さらにそのような機会を得た経験や思い出は、今後生かせる場が多くあるのではないかと考えています。また、三年間を共に過ごし、実習や勉強など支えあった友人も大切な存在です。現在は皆、各地で自分たちの道を目指すところに向かい進ん

でいますが、何かの時にはこれまでのように助けあっていけるよう大切にしていきたいと思います。特に今年度は新潟県中越大震災が起こり、私の住んでいる小千谷市は、一瞬にして大きく姿を変えてしまいました。そして多くの方々が自宅を失い避難されていたように、私も自宅を失い避難生活を送りましたが、そんな状況下でも多くの友人やお世話になった方々から励ましの言葉や、直接現地まで来て励ましてくれたことなどでとても勇気付けられました。この場を借りてご支援いただいた方々にお礼を申し上げたいと思います。

いま私は臨床に出てまだ一年経っておらず、毎日が新しい経験や驚きの連続です。そして学生時代と同じように患者様から様々なことを教えられ、考えさせられることが多い毎日です。そんな状況ですがいつかご指導いただいた先生方や、第一線で活躍されている本学の先輩方のような看護師になることができるよう、より一層の努力を積みたいと考えています。

このように学生時代は言い表せないほど多くのことを学び、得ることができました。その新潟県立看護短期大学が平成16年3月をもって看護学科が終了し、平成17年3月で専攻科を終了してしまうことはとても残念でなりません。しかし本学の学生であったことを誇りに思い、学んだことを現場で深め、実践の場で生かして行きたいと思います。